

# 生協のまどか葬で、 突然の別れにも、 悔いなく送ることが できました。

I・T様より

父は昨年7月に体調を崩し、以後は入退院を繰り返していましたが。覚悟を決めていたこともあり、もしものときは生協のまどか葬に依頼しようと主人と話していました。

その父が9月12日に容体が急変し、病院に入院した翌日の朝、帰らぬ人となりました。急ぎよ、生協のまどかに連絡すると、すぐに電話があり、病院へ迎えに行くということに対応の早さにびつくりしました。

通夜の前に「湯灌(ゆかん)の儀」を執り行いました。納棺士にお化粧をしてもらい、健康的な肌色になったことで、数年前に若返ったような、穏やかな顔立ちにいただきました。



## 嬉しかったスタッフの 心遣い

会館はゆつたりスペースで清潔、食事もおいしく満足できました。通夜や葬儀の受付は会館のスタッフにお願いし、香典などの管理は身内で行いました。当

日返しなどもスムーズに行うことができ、システムができていたことを感じました。

また、スタッフの方は「したいこと、したくないこと」などの希望にも快く応えてくれたこと、決まっていたはず、また、忘れていたことがあればすぐに声をかけてくれるなど、気配りやきめ細かな心遣いをいただき嬉しかったです。



## 満足のいくお葬式が できました

8年前の母の葬儀のときは別の葬儀社に依頼しましたが、そのときは葬儀社より心づけの額や渡し先などの説明を受けましたが、今回は心づけなどの気遣いはありませんと最初に言われ、精神的に楽でした。

また、母のときには余裕が無かった苦い経験を生かして、今回は父の遺影も用意していたこと、年金や通帳の管理もしていたことで葬儀後の各種手続きは四十九日を迎えるま



でほぼ終わることができました。父の棺には、自作の俳句の色紙と母の袱紗(ふくさ)を入れてあげました。

生協のまどか葬を通して父を気持ちよく送ることができたことが何よりも幸せです。



## まどかより

### 自分らしい送られ方を！

Iさんにはお忙しい中、快く取材にご協力いただき、誠にありがとうございます。最後に「老いの覚悟として、年相応の身支度をしておくことが大切」と述べられました。

日頃から葬儀についての関心や知識を事前に情報収集しておくこと、送る側も送られる側も元気なうちに、もしものときの準備や心構えをしっかり持ちあわせておけば、悔いの残らない葬儀を執り行うことが出来るのではないのでしょうか。

現在、生協のまどか葬は、平安会館斎奉閣とむら井総本店の2社と提携して進めています。